

## 毎月1回、館内のボランティア活動を継続

### = 意外と楽しい返却本の清掃と書棚の整理 =

「友の会」は今年度から中央図書館からの依頼に基づき、館内のボランティア活動を開始しました。その内容は返却本の清掃と書棚の整理です。本年4月に開催された第7回総会後をスタートに、これまで毎月第3土曜日の午後1時から入会受付と併せて行っています。

### 汚れをふき取り、新刊本に変身？

まずフロアに机を出し、オレンジエプロンを着けて、当日返却されラックに並べられた書籍を1冊ずつ専用の清掃スプレーを吹きかけ、布で汚れをふき取る活動です。特に白い表紙など淡い色で装丁された本はこれで、新刊書と見まごうばかりにきれいに变身します。次から次へと返却される本に圧倒されながらも、色白美人になった成果を見るとちょっとした達成感に浸れます。

### 間違い探しに熱中？

清掃を約1時間行った後は、書籍やCDが分類番号通りに配架されているかを確認する“本をそろえる”活動です（下欄参照）。私たち利用者は手に取った本を、元あった箇所に正確に戻すのをあまり気にしないのかもしれませんが。大体の場所か、急いでいたり、多数の本を選んだり、また探していたり、特に小さくて薄い本やCDなどはぎっしり並んでいると元通り書棚にきちんと戻すのは意外に苦手なものです。

参加者は背表紙の下部に貼られた分類番号と著者記号（50音順のカタカナで表記されている）を1冊1冊見ながら、根気のいる活動をこれまた約1時間続けます。時間の関係からごく一部分しかできませんが、活動中、間違いを発見し正しい位置に本を戻すのに、人によっては一種の爽快感を味わえることもできます。

今後も中央図書館で継続していきますので、ご興味のある方は是非1度活動をご覧いただき、「友の会」に入会して一緒に活動してみませんか？



## 図書館を知ろう（第1回）

### “本をそろえる”とは…ラベル通り、正しい“住所”に戻してやること

中央図書館では「本を並べる」のは図書館スタッフが行います。従って私たち「友の会」会員が行うのは“本をそろえる”活動です。書架での活動中、利用者から声をかけられた場合、答えずに速やかに図書館のスタッフや職員に引き継ぎます。“そろえる”手順は下記の通りです。

- (1) 本を選んでいる方（利用者）がいないコーナー、そして選んでいる方の迷惑にならない箇所から活動を開始する
- (2) 原則として背表紙のラベル（請求番号）の順にそろえる
- (3) 書架の上にめんだし＝面出し（表紙をみせて立てかけてある）の本がその本棚の番号と合っているかを確認する。もし書架の分類番号と違う本が出ていたら、番号を見ながら所定の書架に戻す
- (4) 上・中・下または1・2・3などのシリーズは左から順にそろえる
- (5) それぞれの棚の右端は、容易に取り出せるように、本が4～5冊並べられるスペース（こぶし2つ以上）を空けておく
- (6) 棚の縁に沿って凹凸がないようにそろえる（こちらは“つらあわせ”＝面合わせと称するらしい）

—— 中央図書館編「配架についての説明」より抜粋 ——

次回(第2回)は背表紙に表記されている「請求番号」を中心に説明をする予定です。

# と一緒に図書館でボランティア活動をしませんか

## 友の会委員会の紹介 その2

## 児童サービス応援委員会

児童サービス応援委員会は、現在 14 名(男性 1 名・女性 13 名)が所属しています。

《主な年間の活動》

- ① 毎月第 1 土曜日午後、中央図書館の「おはなしのへや」での定例おはなし会を担当(終了後、ボランティアルームで定例会を開催)。

14 名のうち、過去に公共図書館主催の「読み聞かせボランティア 初級講座」の受講をした 10 名が「おはなしくらぶ」という名称のグループとして、交代で毎月の活動を担っています。土曜日の午後は保護者の方と図書館に来るお子さんも多く、おはなし会ではおとなも子どもも一緒に楽しんでいただけるように、おもしろいお話や絵本、手遊びやわらべうたなど、職員の方と協力してプログラムを組み立てています。

- ② 毎年夏休み(7 月)、小学生を対象にした夏休みの自由研究の宿題サポート「自由研究おうえんたい」を開催。主に「おはなしくらぶ」には参加していないメンバーと、葛飾区の小中学校に配属されている学校図書館支援指導員の有志、中央図書館児童室の共催で開催しています(下記の記事参照)。

- ③ 中央図書館開館周年イベントの「友の会ウィーク」へ「おはなしくらぶ」として参加。

### 今年で5回目 《自由研究おうえんたい》

#### バラエティに富んだ課題に親子で取り組む

第 5 回目となった「自由研究おうえんたい」、今回は「広報かつしか」や区立図書館でも PR をしていただき、事前の問い合わせも多かったようです。

いつの時代も親子ともに頭の痛い小学生の夏休みの宿題「自由研究」ですが、「おうえんたい」では、自由研究のテーマの決め方、資料の探し方、報告のまとめ方など、それぞれの話を聞きながらサポートしています。

《サポートチーム》は、葛飾図書館友の会児童サービス応援委員会と葛飾区立学校図書館支援指導員有志、中央図書館児童室職員で結成。



会場となった中央図書館会議室では恒例の、図書館振興財団が主催する「図書館を使った調べる学習コンクール」の過去の受賞作品(複製)や、中央図書館児童室作成の「調べ学習応援シート」を展示し、来室された方が具体的にテーマやまとめ方をイメージできるようにしています。まとめ方では、今回「STAP 細胞」の報道から、小学生の自由研究と言えども、調べた資料の出典をきちんと書くことの大切さを確認された保護者の方が多かったです。7月28(日)と29日(火)の2日間の参加者のべ人数は、小学生 13 人大人 10 人。

昨年より少なめでしたが、じっくり取り組める子が多く、内容は「星について」「人工ロボット」「竜巻」「星座」「薬・食中毒」「蚕→数え方」「昆虫」「食虫植物」「戦国時代・武将」「葛飾について」「百貨店見学の報告レポートのまとめ方」などバラエティに富んでいました。なかには自由研究の宿題とは関係なく、黙々と自分の知識を深めて「調べる」ことを楽しむ姿もあり、頼もしく感じました。

今回は 28 日には J-COM(ケーブルテレビ)の取材が、29 日にはかつしか FM の生中継があり、それぞれに様子をレポートしてもらいました。「自由研究おうえんたい」のリピーター(今回で 4 回目!)6 年生のえみさんが、リポーターのお姉さんに、調べ学習の楽しさや小学生の夏休みについてのインタビューに答えてくれて、より臨場感が伝わったようです。

(児童サービス応援委員会)

## 「柴又」の歴史・文化的資源を探ったあと、

### 西洋楽器が帝釈天の格天井に鳴り響く



葛飾区が後援する『東京・歴史と文化のまちづくり in 柴又』というユニークなコンサートが7月21日(月)、柴又の帝釈天で開催されました。帝釈天といえば『寅さん映画』で全国的に知れわたった葛飾区のシンボルですが、今回は《柴又》という地名に由来する歴史的事実を伝える講演と、有名なブランデンブルグ国立管弦楽団の一流メンバーが演奏する西洋音楽を、下町の豪華なそして荘厳な内陣で鑑賞する、画期的なコラボレーションでした。抽選で選ばれた参加者は100名、本堂である祖師堂は満員の盛況でした。

第1部は、まずおなじみの谷口榮さん《葛飾郷土と天文の博物館学芸員》＝本紙第1回知的ルポでご紹介＝が登場し、柴又の地名とその歴史的な関わりについて、ユーモアいっぱい介绍了しました。特に柴又八幡神社の境内に古墳があり、そこで平成13年に発見された帽子をかぶった埴輪が『寅さん』そっくりの上、奇しくもその日が8月4日、渥美清さんの命日だったという因縁話で爆笑。

次に演奏する六重奏団のメンバーが所属するブランデンブルグ国立管弦楽団の首席客演指揮者・浮ヶ谷孝夫さんの「西洋音楽は楽しく聴いて欲しい、楽しく聴けたらその演奏は及第だ」という趣旨のお話がありました。浮ヶ谷さんは1953年埼玉県川口市に生まれ、1978年に渡独、ベルリン芸術大学指揮科に学ばれ、カラヤン、ハンガリー国際指揮コンクールで受賞し、ヨーロッパ各国の演奏会で活躍、国内でもNHK交響楽団ほか多くの演奏会で指揮をされています。

第2部はいよいよメインイベントの『木管六重奏』です。木管六重奏という演奏形式は日本ではよほどのクラシックファンではないと馴染みの少ない形式の音楽と思われそうですが、オーボエ、フルート、クラリネット、ホルン、ピアノ、ファゴットの6つの楽器で編成されている演奏形式です。近ごろは吹奏楽が盛んになり関心も高いようです。

いずれも美しく、木造建築の舞台に吸い込まれるような名演奏でしたが、最後の曲のパッションートな終楽章に聴衆の拍手が鳴りやまず、アンコールが2度も行われました。

(広報委員・高橋記)

## 「葛飾花菖蒲」写真展&講演会が開催 図書館のベランダに数鉢の花が咲き誇る

初夏を彩る葛飾の名花、菖蒲の写真が6月1日から25日までの4週間、中央図書館の児童エリア奥の子どもデッキで展示されました。ベランダには鉢に植えられ咲き誇っている花菖蒲が並べられ、毎日、図書館職員が水を与えたとのこと。

また昨年と同様、「友の会」も後援した講演会が6月8日(日)午後から中央図書館で開催されました。「育て、伝えよう! 葛飾伝統の花菖蒲」と題され、区の文化財保護推進委員会の保田史義副会長が花菖蒲の歴史や、花菖蒲を手にとって栽培の方法などを中心に分かりやすく語られました。なお、参加者のうち数名に保田さんの持参された菖蒲がプレゼントされました。



**「葛飾図書館友の会ウィーク」開催の概要が決まる**  
**開催期間は11月8日(土)から24日(月・祝)まで**  
**講演会や映画・コンサート・演劇、おはなし会などを予定**

第6回目を迎える「葛飾図書館友の会ウィーク」が開催されます。このウィークは中央図書館開館5周年記念 ～もっと楽しもう！つながる図書館～（10月17日から11月3日）に続き、生涯学習の場として、また市民交流の場として区内の図書館がさらに発展していくことを願うとともに、「友の会」や参加団体の活動をアピールする機会として毎年行われています。

現在、友の会会長を委員長とする「実行委員会」を中心に開催に向け活動を開始しました。

《企画中のイベントの主な内容》

- 会場 中央図書館内（会議室1・2、おはなしのへや、展示コーナーなど）
- 参加要件 友の会の各委員会、または友の会会員が所属する団体及び図書館に登録している団体
- 特別講演会（中央図書館との共催）11月15日（土）午後2時から4時  
 講師 松崎 運之助氏（山田洋次監督の映画「学校」第1作の原作者、著書多数）タイトルは未定
- その他、講演会・読書会・映画会・演劇・CDコンサート・おはなし会・紙芝居・マジックショー・ワークショップ・資料展示などを予定しています。

詳しい内容は決定次第、ポスター・チラシ、「友の会」ホームページなどでお知らせします。



昨年度のマジックショー風景

**「葛飾図書館友の会」で一緒に活動しませんか！**

『友の会』は多くの会員によって活動しています。図書館を利用されている方、活動趣旨に賛同される方々、是非ご入会いただいて、あなたの図書館に関わるいろいろなアイデアを少しずつ実現してみませんか？

原則として第3土曜日の午後1時から4時まで中央図書館内で、また友の会の開催イベント時でも直接の入会受付を行っていますので、是非ご利用ください。年会費は一般会員 1,000 円、賛助会員は1口 2,000 円です。上記の方法が利用できない場合、入会希望者は中央図書館に入会届をご提出の上、年会費を下記の口座に納入してください。図書館での年会費の直接納入はできません。「通信欄」に一般あるいは賛助会員かを明記の上、26年度年会費とご記入下さい。また1口

ゆうちょ銀行	口座番号	00100-7-392065
	口座名称	葛飾図書館友の会

500 円の寄付も大歓迎です。払込手数料は窓口では130円、ATMからでは80円です。恐れ入りますが、ご負担をお願いいたします。入会届はHP (<http://katsutomo.jimdo.com/>) からダウンロードできます。

●問い合わせ先 中央図書館友の会担当者（打越さん、吉村さん、白井さん、川井さん）Tel 03-3607-9201

**色えんぴつ**

スイカやメロンといえば夏の果物の筆頭。暑さをしのぐ立役者だが、食欲も衰えがちな夜食にはそうめんも欠かせない。冷たい麺を旨いつゆにつけてつるつと喉にすべらせる快感は格別。日本人であることのアワセを思う一瞬ではないだろうか。▼この快感を支配するのは「うま味」という成分だ。食べ物の味は、アミノ酸塩類、塩、それにうま味物質の三者でつくられているという（栗原堅三著「うま味って何だろう」岩波ジュニア新書）▼そのうま味物質を代表する物質がグルタミン酸塩（コリンブのうま味成分）イノシン酸塩（カツオブシ）グアニル酸塩（シイタケ）の三つ。池田菊苗ほか三人の日本人の学者が発見した。欧米人はながい間うまみという味は存在しないと云ってきたが、今日では umami が辞書にも載り、世界各国では空前の日本食ブームだ▼ところでひところ化学調味料（今日ではうま味調味料という）について《中華料理店症候群》が一九六〇年代にアメリカで問題になった。しかしすでにWHOによって安全宣言され、日本食の「うま味」はますます名声を高めている▼ファーストフードが氾濫する今日、日本食のうまみの根幹をこの書で味わい、日本独自のうまみを生かした料理で食卓をかざってほしい。

（高橋広報委員）